

佳作

## 電車の中で

香川県 高松市立太田中学校一年 山田 悠衣里

私は最近、心があたたまる場面に出会いました。電車に乗っていると、おばあさんが乗ってきました。その日は、電車を利用する人が多く、席はほとんど空いていませんでした。そのため、おばあさんは座ることができずに立っていました。

すると、近くに座っていたおばさんが、席をゆずっていました。

その後です。おどろいたことに、席をゆずったおばさんに、近くにいたお姉さんが、席をゆずろうとしたのです。

おばさんは、

「まだまだ、ゆずられる年じゃないので。」と軽く笑いながら断わっていました。

普通なら、席をゆずったおばさんに、席をゆずるなんてことはしないと思います。私なら、きっとで

きないと思います。それは、どうしても自分のことを優先してしまうからです。だから、席をゆずる人が多くないのだと考えました。特に、今回の場合のおばさんは自分から席を立つのを選んだようなものですから、ゆずろうと思う人は少ないと思います。

私は、席をゆずったお姉さんにあこがれを抱きました。席をゆずるのは当たり前のようなことだ、と思う人もいるかもしれません。しかし、実際に行動しようと思っても、緊張してしまうものです。お姉さんはきっと、勇気があるのだろうな、と思いました。

おばさんにもあこがれを抱きました。席をゆずったことにはもちろん、ずっと笑顔だったことです。断っていたときも笑顔で、絶対に嫌な気持ちになりません。おばさんが笑顔だったから、私もつられて笑顔になっていました。笑顔でいるって、こんないいことだったんだと気付かされました。

私も、おばさんやお姉さんのように、誰かに「いいな」と思ってもらえる行動が出来る人になりたいです。

そんな人になるために、考えたことがあります。一つは、自分がされてうれしかったことをたくさん

思い浮かべるということ。もう一つは、もし、自分が相手の立場だったら、何をしてほしいか考えること。行動しようと思っても、実際に行動が出来ないということもあるかもしれません。しかし、そのときは、「自分だったら…」と考え、一歩前に踏み出せるよう頑張ります。

誰かの優しさは、少しずつ周りに広めていくことができます。私なりに、一つでも多く相手にしてあげられるものを考え、行動し、「人を笑顔にする輪」を広げていきたいです。